聴覚言語障害コース，聴覚障害児教育方法論Ⅰ

討論を中心にした授業

特別支援教育講座・加藤哲則

１．授業の基本情報・概要

科目区分：聴覚言語コース

科目名：聴覚障害児教育方法論Ⅰ

担当教員名：加藤哲則

登録学生数：5 名

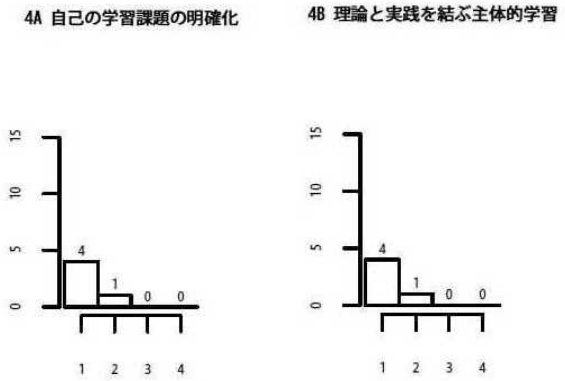
この科目は，聴覚言語障害コース 3 年生が後学期に受講する選択科目である。小学校での教育実習と聴覚特別支援学校(聾学校)での教育実習を経験した直後の学生が，聴覚障害児教育における教育方法についての学修を理論と実践の往還を意識するように進めることを目的に行った。

２．授業研究の内容

この授業の授業方法は，知識や理論の伝達を中心とする授業方法ではなく，理論的な講義部分とそれを基にした討論部分で構成し，特に学生の受け身な学修姿勢をより主体的な学修姿勢への変容を促すことを重視した。今年度の受講生は 5 名であり，学生が中心になって討論を行うためには最適な集団規模であった。授業では，学生自身の聴覚特別支援学校(聾学校)での教育実習での経験を基に，実際に実習で担当した聴覚障害児の聴覚や言語の実態，学習の状況，学力の状況などについて討論を行った。これにより，理論と自らの実践を結びつけて思考を促すことをねらいとした。これは DP に示されている理論と実践を結ぶ主体的学修を目指したものである。

授業の中で討論の話題として取り上げた内容は，学力の向上である。これは聴覚障害児教育のみならず，学校教育の今日的な課題である。学力の向上に必要なものとして，聴覚障害児を対象とした教育では，言語の獲得や言語力の向上が挙げられる。専門的な知識や理論について講義で触れ，学生自身が教育実習で経験した実際の聴覚障害児の言語や学習の状況について，各学生に発言を求めて議論を行った。学生からは，聴覚特別支援学校(聾学校)実習で担当した聴覚障害児の言語力の実態と小学校実習で経験した健聴児の実態との比較を基に，課題を明確化し，自身が課題に今後どのように取り組むべきかを各回にわたり実施した。

学生の DP 対応調査の結果でも，「自己の学習課題の明確化」や「理論と実践を結ぶ主体的学習」の項目での学生の認知度が高く示されたことからも，確認できた。



３．「授業時間外学習の促進」について

討論形式で授業を進めるために，各回の授業の最後に次回の討論テーマを伝えた。それに基づいて，各学生が自分の意見をもって授業に参加するように関連する内容について主体的に文献を調べること等を通した学習を促した。しかし，学生のアンケート調査結果では,時間外学習の平均時間が 0.9 時間と短く，自発的読書の冊数も平均 1.6 冊と少ない結果であった。これは課題等の提示方法が漠然としており，学生自身の主体的な時間外学習を促すには不十分であったと考えられ，今後の改善が必要であると考えられる。

４．総括

今回の討論を取り入れた授業方法は，学生の主体的な学修において一定の効果があったと考えられる。中教審初等中等教育分科会報告でこれからの教員に求められる資質として「教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」が示されている。そのためには，教員養成学部の授業でその素地を身につけるような授業改善を続ける必要があると考えられた。